

一般社団法人日本色彩学会 2021 年度（令和 3 年度）

第 4 回後臨時理事会 議事録

【日時】2021 年 10 月 16 日（土） 15:00 ～ 16:15

【場所】Zoom 利用による遠隔会議

【出席者（敬称略）】

会誌改革 WG 主査 坂本 隆

会長 篠田 博之

副会長 眞鍋 佳嗣, 山内 泰樹

理事 小浜 朋子[記録], 片山 一郎, 西 省吾, 高田 瑠美子, 若田 忠之

監事 関東支部長：東 吉彦（途中退席）

オブザーバー

東海支部長：石原 久代, 関西支部長：石田 泰一郎

事務局 八木橋 生輔

【欠席者（敬称略）】

理事 櫻井 将人, 木村 敦, 大井 尚行, 下川 美知瑠

監事 高橋 晋也

【議題（審議事項）】

日本色彩学から発行する学会誌，及び，論文誌を，定期刊行物名として登録するにあたり，下記の名称の提案があり，審議を行った．

1. 新学会誌名：(和文名) 色彩学（日本色彩学会 学会誌「色彩学」）
2. 新論文誌名：(和文名) 日本色彩学会論文誌

はじめに，会誌改革 WG の坂本主査から，今回提案する名称に至るまでの説明があった．会誌改革 WG，学会誌編集委員会，論文誌編集委員会，および理事会メンバーと協議を重ねてきた経緯をまとめた資料も，参考資料として共有された．

20210810<<理事会資料>>新学会誌・論文誌の名称について_編集委員会_木村

20211012<<参考資料>>Slack 議論(10 月 12 日まで)まとめ_意見交換会用資料_会誌改革 WG_坂本

20211013<<参考資料>>意見交換会議事メモ_会誌改革 WG_坂本

20211016<<参考資料>>Slack 議論(10 月 13 日-16 日)まとめ_会誌改革 WG_坂本

今日の審議の中では，学会が発行する論文誌であることをアピールしやすいかどうか，機能的な観点，バランス的な観点から，また，他学会の定期刊行物名なども参考にしつつ，英語誌名とバッティングはないかなども考えた上で日本語名を決めていきたい（例えば『色彩学ジャーナル』という候補名称は，ジャーナルという言葉は論文誌の英語名に残したいので外した）などの論点も明示された．

続いて，今回絞り込まれた提案の名称のほか，候補に挙がった他の名称について，賛否の意見，違和感など，これまで発言の少なかったメンバーを含め，全てのメンバーからの発言を集めた．論文誌名についてはほとんど異論なく，議論は主に，学会誌の名称に集中した．『色彩学』に関する意見は

次の通り.

- 「色彩学」は学術領域としてはまだ確立されていない. 新名称にすることを機に, 学会から発信し「姿勢」を見せていくのはよいのではないか.
- 「色彩学」は, 科学研究費の分野にもないし, 実はあまり認知されているとは言えない学問領域だが, 様々な学術領域 (心理学, 人工知能, 画像, 環境デザインなど) の横断的な (ハブになる) 学問として存在意味があり, そこがアピールできるとよいのではないか.
- 横断的に様々な学術領域と連携が取れば, 論文誌への投稿や, 特集を組んだ時のエディターになってもらうなどの活動ができるのではないか.
- 色彩工学などサイエンスよりの分野だけでなく, 社会・人文科学 (social science & cultural science または art & science) も Science に含まれると考えもっと広く取り込みながら定義して発信できるのではないか.
- 教育の理念の STEAM 教育 (科学: Science, 技術: Technology, 工学: Engineering, アート: Art, 数学: Mathematics) や企業経営の必要要素 (アート, サイエンス, クラフト) など, アートとサイエンスの融合はこれからの時代のキーワードとなっており, 色彩学も活躍の場も広がるのではないか.
- 「色彩学」にするという姿勢や思いは賛同するが, 今後, 学会誌の内容も, それに合わせて準備していく必要がある.
- 「色彩学」という書籍や, 科目名もあるので, 学会の学会誌名としてふさわしいかどうか, ちょっと戸惑う.
- 学会誌で, 論文や学問的なことだけではなく, コミュニケーションの場でもあるし, 学術的なものだけではなくのものも掲載しているのに「学」という言葉がついているのには, 少し違和感がある. 色彩学そのものはまだ学問として十分に確立されていないと思う人もいる中で, インチキくさく思われてしまうのではないかという懸念. ただ, 感性工学会のように成功している例もある. (学会誌は「感性工学」. 論文誌は, 「日本感性工学会論文誌」 「International Journal of Affective Engineering」)
- 学術領域の人だけでなく, デザインなどを実践する人にとっても, 学会に所属していることで何かメリットがあるような, 学会員を包摂した学会誌にするように考えていきたい. 例えば, 設計の考え方や方法論のヒントになるような事例の蓄積などを共有することなども, 学術的なメリットになるのではないか.
- 今の学会誌の内容だと色彩工学のイメージが強いので, 「色彩学」の方が, アカデミックではない人にとっても, 手に取りやすくなるのではないかという気がする.
- 「カラフルネス」は, コスメやパーソナルカラーの中で使われているので, 商業的なイメージにつながり, 違和感がある.
- この名称を選択しないと他の団体等が「色彩学」を使う可能性があり, その場合, 色彩学会としては, ダメージが大きいのではないか.
- 「色彩学」は, 書籍としてはあるが, 「逐次刊行物」としての登録はないことは確認済み.

結論として, 提案の名称を承認し, 正式名称 (逐次刊行物名称) として 新学会誌名は『色彩学』 (呼び名として「学会誌」, 「学会誌『色彩学』」, 「日本色彩学会 学会誌『色彩学』」などと表現することもある), 新論文誌名は『日本色彩学会論文誌』とすることに決議した.

これまで、ワーキンググループなどの意見を収集した際にも、色彩学という名称にも賛同は得られていること、この名称を決めるにあたって、活動の方向性も併せて議論を重ねてきていることなどから、特に全会員の意向を問うアンケートを実施することなく、この名称を最終決定とし、これまで議論した中で明らかになった留意点をふまえつつ、会員全体で新学会誌名、新論文誌名の趣旨を共有し、展開していくこととした。

今後は、坂本主査が国立国会図書館の ISSN 日本センターに、新学会誌名と新論文誌名を逐次刊行物名として申請する。万が一拒絶された場合は再度検討となる。申請結果については、概ね1週間程度で判明する。

また、両誌の英文名については、引き続き SLACK で議論し、検討を続ける。追って理事会に審議が依頼される予定。

以上